

所属・資格 総合文化研究室・教授

申請者氏名 石川 晃司

研究課題		吉本隆明とアジア
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>① 吉本隆明研究の継続。本年度は特に吉本思想のなかでもイメージ論に焦点を当てたい。イメージ論は、1980年代以降の、吉本思想の中核を形成するものであるが、これについてはあまり研究が進んでいないのが現状である。吉本のイメージ論に踏み込むことには大きな意義があると考えている。</p> <p>② 共同研究で、ASEAN 諸国の現状やグローバル化についても手掛けているので、これらの共同研究も充実させ、吉本研究と連結するように心がけたい。</p>
	研究の結果	<p>① について。イメージ論を展開するための準備作業として、昨年度末に「言語論からイメージ（像）論へ——吉本隆明の所説をもとに」を発表したが、さらにその流れで、吉本思想の根本的な発想を<総体性>として捉えることに時間を費やすことになった。</p> <p>② について。カンボジアの現地調査をおこなうことにより、カンボジアの現在に対してポル・ポト派の知識人大虐殺の悪影響がいまだに及んでいることを、肌で知ることができた。</p> <p>③ その他、担当講義である憲法に関する著作を、新しい成果を取り入れて改定した。</p>
	研究の考察・反省	<p>① ②ともに、残されている課題は山ほどある。次年度も、今年度の流れを継承して、倦まずに、追究を続けていきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>① 石川晃司「総体性の世界認識——吉本隆明はマルクスをどう読んだか」 日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』第96号 平成30年9月</p> <p>② 石川晃司『改訂版 国民国家と憲法』 三和書籍 平成31年3月</p>